

WRV NEWS LETTER

WILDLIFE RESCUE VETERINARIAN ASSOCIATION

特定非営利活動法人 野生動物救護獣医師協会

No.126

2023.9.30 発行



野生動物救護獣医師協会は、保護された傷病野生鳥獣の救護活動を通じて市民の野生鳥獣保護思想の高揚をはかるとともに、地球環境保護思想の定着化を目指しています。そのために、常に世界の情勢を学び、会員相互の連絡、交流を行い、治療、研究および知識の普及をはかり、社会に貢献していくことを目的としています。

No.126 目次

施設紹介ー長野市茶臼山動物園	2-3
施設紹介ー小諸市動物園	4-5
「海ゴミモンスター君、海ゴミバード君」国立科学博物館『海展』に登場	6-7
令和5年度 油等汚染事故対策水鳥救護研修のご案内	8-9
海鳥と餌となる魚類の関係	10
新任挨拶	11
寄付のお礼	11
事務局日誌	11-12

長野市茶臼山動物園

長野市茶臼山動物園 獣医師 山上達彦

【長野市茶臼山動物園】

長野市茶臼山動物園は、長野市政 80 周年事業として 1983 年 8 月 8 日に開園し、今年で 40 周年を迎えます。長野県下最大の動物園として、国内で 6 頭しかいないウォンバットやアジアゾウ、キリン、ライオンなどの大型動物など約 70 種 600 点の動物を飼育展示しています。長野市篠ノ井の山腹に位置し、「森の中の動物園」をコンセプトに近年では自然の広葉樹林帯や傾斜地、動物園からの善光寺平や長野の山並みの眺望を活用した生息環境展示を採用し、動物園の再整備を進めています。2009 年に「レッサーパンダの森」、2021 年に「オランウータンの森」、今年 2023 年には「ライオンの丘」がリニューアルオープンし、昨年度は年間入園者数過去最高を記録しました。

また世界的に絶滅が危ぶまれているレッサーパンダやアムールトラ、オランウータン、チンパンジー、コツメカワウソ、シロオリックスの国外希少種の生息域外保全にも力を注いでいます。特にレッサーパンダは、1985 年に長野市の姉妹都市である中国の石家荘市から来園し、現在まで 36 回の出産、64 頭の繁殖に成功し、日本の繁殖拠点として成果をあげています。



【野生鳥獣保護状況】

当園では長野県の傷病野生鳥獣保護事業に協力しています。2017 年に県の保護対象種が明確化され、近年では保護件数は減少しております。さらに昨今の新型コロナウイルス感染症の感染拡大や毎年鳥類飼育施設を悩ませている高病原性鳥インフルエンザの流行を受け、ここ数年は保護の受け入れを実施しておりません。ただし、電話での問い合わせ等はヒナが巣立つ季節に多く、発見者には野生動物への適切な関わり方をお伝えしたり、行政機関への相談をお願いしたりと、対応させていただいています。

過去、保護した動物は哺乳類ではタヌキ、アナグマ、ハクビシン、ムササビ、ニホンジカ、鳥類ではフクロウ、チゴハヤブサ、オオコノハズク、チョウゲンボウ、アオバトなどの実績があります。放野が困難な個体に関しては動物園での終生飼育を行い、現在も元気に活躍し、繁殖に携わっている個体もいます。

また日本動物園水族館協会を通して、税関で摘発保護された海外からの密輸動物の保護収容も実施しております。コキンメフクロウ、ビルマホシガメ、オーストラリアハイギョなど、保護収容した動物は展示し、密輸に関する啓発活動も実施しています。

2022 年には北海道の希少種であるシマフクロウの飼育を開始し、2021 年には環境省のライチョウ保護増殖事業における中央アルプス野生復帰事業に参画し、長野県鳥であるライチョウの野生下集団の受け入れに協力しています。



【ライチョウ保護増殖事業への参画】

2012 年に策定されたライチョウ保護増殖事業に参画し、2020 年に策定された第二期ライチョウ保護増殖事業実施計画をもとに進められた、中央アルプスにおけるライチョウ野生復帰実施計画にも協力しています。野生復帰実施計画に伴い、中央アルプスで繁殖した 2 家族を、那須どうぶつ王国と当園で 2021 年に 1 家族ずつ受け入れを実施しました。実際に中央アルプスで実施している野生下ライチョウの母親とヒナのケージ保護の現場実習を行い、ヘリコプターでの移送後、各動物園へ受け入れ、飼育を開始しています。その翌年にはそれぞれ家族の中の雄個体の交換、そして春から動物園での繁殖を目指す取り組みを行いました。当園ではヒナの誕生までは成功しましたが、発育中に死亡してしまいました。那須どうぶつ王国では無事にヒナの成育に成功し、2022 年に計 22 羽のライチョウを中央アルプスに復帰させることができました。今年も残った個体で繁殖を目指しましたが、産卵が確認できないまま繁殖期を終えました。

この取り組みを通じて、野生下ライチョウの飼育、そして繁殖の難しさを改めて痛感しました。飼育していく中で生じた課題や、繁殖が成功しなかった原因を追究し、飼育下のライチョウ個体群へのフィードバックを実施し、今後の動物園でのライチョウの生息域外保全活動に寄与していけるよう努めていきます。またライチョウを通して、野生動物と我われ人間との適切な関係性についての普及啓発にも、力を注いでいきたいと考えております。



小諸市動物園

小諸市動物園 主任飼育員 牧野 沙耶香

【小諸市動物園について】

小諸市動物園は小諸城址懐古園内にあり、1926年(大正15年)4月20日に開園し、県内では最も古く、国内では5番目に古い動物園です。大正15年、まだ小諸市が誕生する前に創設した動物園は小規模で、現在の原型になったのは、昭和2年に懐古園の馬場と動物園をつなぐ白鶴橋ができてからと伝えられています。数匹のニホンザルの保護施設から始まり、現在では大型動物のライオンから小型動物・家畜動物など、約35種、約151頭の動物たちの飼育展示をしています。2022年にふれあい休憩所やフンボルトペンギンの獣舎がリニューアルされ、今後も各獣舎のリニューアル工事が予定されています。



小諸市動物園正門



リニューアルされたフンボルトペンギンの獣舎

【傷病施設・展示施設について】

野生動物の保護・治療個体のための施設があります。小規模で治療室はないため、ケージやキャリーなどで飼育をし、健康状態に異常がない場合は園内の空き獣舎にて飼育をします。野生復帰が可能かどうか判断し放野していきます。園内に獣医師はいないため、鳥類・エキゾチック動物を扱っている動物病院にて診察をしてもらい、トレーニングなどは飼育員で対応しています。



傷病鳥獣舎



フクロウ舎



小獣舎(タヌキ・キツネ・テン)



ムササビの人工哺育の様子

保護されたフクロウの雛

【傷病鳥獣の救護実績】

	鳥類		哺乳類		爬虫類		合計	
	保護数	放野数	保護数	放野数	保護数	放野数	保護数	放野数
2014 年度	6	3	1	0	0	0	7	3
2015 年度	9	0	0	0	0	0	9	0
2016 年度	3	1	0	0	0	0	3	1
2017 年度	2	0	4	0	0	0	6	0
2018 年度	2	0	2	0	0	0	4	0
2019 年度	0	0	0	0	0	0	0	0
2020 年度	1	0	0	0	0	0	1	0
2021 年度	0	0	1	0	1	0	2	0
2022 年度	2	0	0	0	1	0	3	0
2023 年度	1	0	4	1	0	0	5	1

2014 年度から 2023 年の 10 年間で、保護された傷病野生鳥獣は合計 40 点で、鳥類 26 点、哺乳類 12 点、爬虫類 2 点です。そのうち放野数は合計 5 点で野生復帰不可能のため終生飼育になった個体は 15 点です。

小諸市動物園では、小諸市のみならず、県内・県外などの広い地域で保護された野生鳥獣が持ち込まれることもあります。保護対象とならない種などは、園内の空き獣舎次第で受け入れをする個体もありますが、鳥類の場合は基本、放鳥ができるように取り組みをしています。問い合わせが多い種は鳥類で、巣立ち後の雛、カラス、トビ、タカ、スズメなどの小型鳥類で身近に棲んでいる種が多く、骨折・外傷がある個体や衰弱している状態が多く見られます。他にも、園内ではフクロウの保護やムササビの人工哺育などをやり始めたのがきっかけで、フクロウ・ムササビの保護の問い合わせも多くなりました。

【現状や今後の課題】

「衰弱していて可哀想だから」という理由で保護されることが多く、動物園に連れて行けば保護してもらえるのではと直接持ち込まれてしまうこともあり、受け入れせざるを得ない場合もあります。受け入れをした場合は獣医師とも相談し、野生復帰ができるよう、飼育員が的確な対応をしていけるようにしたいと考えています。一般市民や保護しようと悩んでしまう方には、野生動物とのつきあい方や命のつながりなどを知ってもらい、保護する前によく考えて行動してもらえるように、動物園で啓発活動を行っていきたいと思います。

「海ゴミモンスター君、海ゴミバード君」国立科学博物館『海展』に登場

神奈川野生動物救護連絡会 葉山久世（かながわ野生動物サポートネットワーク）
高橋真理（神奈川県野生動物リハビリテーター）

上野の国立科学博物館で開催中の特別展『海 ―生命のみなもと―』（通称、海展）。

展示の最終章「海との共存、そして未来へ」では人為による海洋環境問題が紹介されています。その1つ、海洋プラスチック汚染のコーナーで、神奈川野生動物救護連絡会（通称、救護連*）が普及啓発用に制作した「海ゴミモンスター君、海ゴミバード君」が展示されています。（*救護連については後述）



【海ゴミモンスター君とは】

海岸清掃で拾ったゴミで作ったモンスター君とバード君。

モンスター君が生まれたのは、2009年「理科ハウス(注1)」の『海ゴミ GO ME! ―ゴミになやまされる野生動物たち』がきっかけです。捨てられたゴミがたどり着いた海岸で、再び集合し生き物のような姿になって現れるイメージを、学芸員の山浦さんとお話しし、『それいいねー、作ろう!』ということになりました。実際にモンスターは、芯材以外すべて海岸の現地調達で作られました。

ゴミのパーツの劣化に伴い、現在のモンスター君は2代目となり、また2018年のジャパンバードフェスティバル(注2)に出展する際にバード君が誕生しました。

今回の展示にあたり、6月に平塚市と三浦市毘沙門の海岸で海ゴミを拾い、新たな海ゴミを用いて手直ししました。



【海ゴミ問題を取り上げるようになった経緯】

神奈川県では、市民によって年間1000（羽・頭）を超す傷ついた野生動物が救護され、動物園、神奈川県自然環境保全センター、動物病院などに持ち込まれています。救護原因の多くに人間との関わりがあることがわかっており、放置されたテグスや釣り針が絡まる被害もその1つです。

救護連では、釣りに関わるゴミの状況を知るために、2008年から海岸清掃に参加したり、海岸や河原の調査を行いました。海岸には予想されたテグスのほかに、驚くほど大量で多様な「ゴミ」がありました。海岸清掃を定期的に行っている団体に聞くと、いずれも清掃後、すぐに再びゴミが流れ着いたり吹き寄せられ溜まってしまうということでした。

自分の手で拾ったことで、このゴミの量と種類にあらためて驚きを感じ、海岸清掃の経験がない人にもこんなゴ

ミがあるのですよ！と見せたいと強く思い、2009 年によこはま動物園 ズーラシアころこロッジで初めて海ゴミが野生動物に与える影響、釣り針や釣り糸による被害などの展示を行いました。

当時はまだ、一般的に今ほどプラゴミの問題を取り上げられてはいませんでした。私たちはその後も『海ゴミ GOME!』（人の手から離れたゴミはいずれ自分たちに跳ね返ってくるーGO ME!）と名付けて展示をしたり、『野鳥たちからの SOS!』と題して、各所の展示やイベントで普及啓発活動を行っています。

【科学博物館で展示されるようになったきっかけ】

2009 年ズーラシアでの最初の実験展示にあたり、日本野生動物医学会でつながりのあった国立科学博物館の田島木綿子先生に、クジラが人工物を誤食していることをお聞きし、写真をお借りしました。田島先生はストレンジングした鯨類を調べている科学者です。このご縁で 2013 年の『大哺乳類展』でモンスター君が科博に「出張」する機会をいただきました。そして今回の『海展』にもお声がけいただきました。

【私たちが伝えたいこと】

プラスチックゴミが、海に溜まって分解されないまま何年間も漂い続けることは周知の事実となりました。このままでは、2050 年には海のプラスチックゴミが魚の重量を上回るとさえ言われています。国はレジ袋禁止など、プラスチックゴミを減らす対策を行っていますが、ここ 10 年間の生活系プラスチックゴミの減量も資源化もほとんど進展していない、というデータが環境省からも出されています。近年、海外で脱プラスチック政策が大きく進んでいるのに比べ、我が国は出遅れている感が否めません。ゴミの処理責任が製造者ではなく自治体に任されていることも、リサイクルしにくい使い捨てプラスチックが減らない理由かもしれません。しかし私たち一人一人にもやるべきことがあるはずです。本当はモンスター君が生まれるのは不自然なことで、自然が分解できないものをこれ以上捨ててはならないということです。



環境中のプラスチックについての研究が進むにつれ、空気中も水中もプラスチックだらけで、人の（もちろんあらゆる動物の）体内にも取り込まれていることがわかってきています。

海ゴミモンスター君、海ゴミバード君が、プラスチックに囲まれた今の生活を考え直すきっかけになってくれることを願っています。

【救護連とは】

神奈川県には、たくさんの野生動物救護関連のグループがあります。救護連の前身は、動物園の飼育員さんたちも含めた救護動物の勉強会です。この勉強会の終了後も、団体間を超えた交流の場を持つということで結成されました。現在は、かながわ野生動物サポートネットワークの葉山を中心に、おもに神奈川県野生動物リハビリテーターが情報を交換したり、イベント等を通じ普及啓発をしながら楽しく学びあっています。気軽に参加できる学びと交流と実践の場として、野生動物救護の究極の目的である生物多様性の保全に沿った活動を展開しています。

※神奈川県野生動物救護連絡会（救護連） <http://wl-qgoren.main.jp/>

* 国立科学博物館で開催中の特別展『海 ―生命のみなもと―』 2023.7.15-10.9

<https://umiten2023.jp/> （来春、名古屋市科学館（愛知県名古屋市）巡回予定）

* 名古屋市科学館での展示終了後、モンスター君は横浜市金沢区にある海の公園の海とのふれあいセンター、バード君は横浜市金沢動物園、ののほな館にて会うことができます。

注1：理科ハウス：世界一小さな科学館 <http://licahouse.com/>

逗子市にある私立の科学館。意欲的・独創的な企画と参加型展示が目白押し。いつ行っても子どもと大人の知的好奇心を満たしてくれるスポット。

注2：ジャパンバードフェスティバル（JBF） <http://www.birdfesta.net/>

自然保護や研究から写真、美術、鳥グッズ販売まで多様な鳥をモチーフにしたイベント。毎年千葉県我孫子市で行なわれる。

令和5年度 油等汚染事故対策水鳥救護研修のご案内

WRV事務局 二階堂 仁美

日本においては、全国各地で海洋における油等汚染事故が多数発生しています。そのため環境省自然環境局では、油等汚染事故などの発生時に、海洋保全と野生生物保護の観点から迅速かつ的確に対応できるよう、「油等汚染事故対策水鳥救護研修」を例年開催しています。

会員の皆さまには、是非、本研修にご参加いただき、そこで学ばれた事を職場における事前準備や実際の事故対応にお役立ていただきたく、改めてよろしくお願い致します。

研修の詳細案内および参加申込み用紙は、環境省水鳥救護研修センターホームページ、または野生動物救護獣医師協会ホームページからダウンロード可能です。詳しい開催日程が決まりましたら掲載いたしますので、今しばらくお待ちください。ご質問等ございましたら、環境省水鳥救護研修センターまでお気軽にご連絡ください。



日 程：第1回：現場救護リーダー向け 令和5年10月23日(月)、24日(火)
第2回：鳥獣保護行政担当者向け 令和5年11月9日(木)、10日(金)
第3回：現場救護リーダー向け 令和5年12月13日(水)、14日(木)

会 場：環境省 水鳥救護研修センター研修室 (第1～3回研修)
〒191-0041 東京都日野市南平 2-35-2 TEL 042-599-5050 FAX 042-599-5051
HP <http://www.env.go.jp/nature/choju/effort/oiled-wb/>

対 象：国・地方自治体の鳥獣行政等職員、鳥獣保護センター等職員、獣医師、鳥獣保護員、動物園・水族館職員、水鳥救護に携わる関係者等

参加費：無料（参加のための交通費、宿泊費等は自己負担）

申込先：<https://forms.gle/CS1a5s1eDu2h7kMB8>



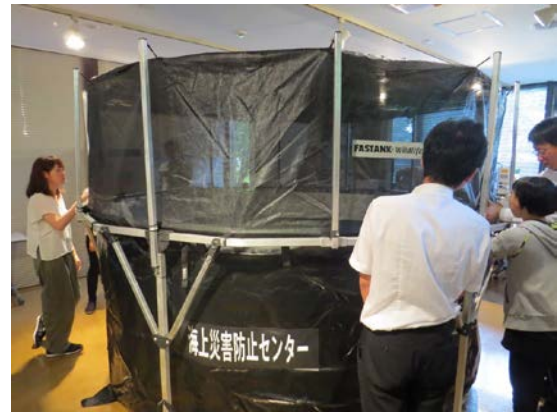
上記 URL・QR コードより申し込みができない場合は電話・メールでも受け付けますので水鳥救護研修センターに直接ご連絡ください。

主 催：環境省

請 負：特定非営利活動法人 野生動物救護獣医師協会（WRV）



講義の様子



リハビリプールの設置実習

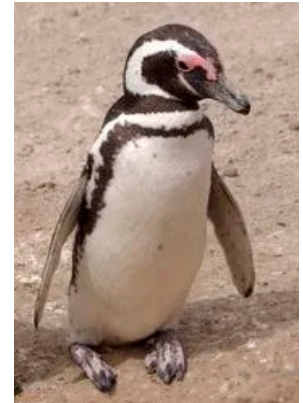


洗浄実習の様子

海鳥と餌となる魚類の関係

WRV 事務局長 箕輪多津男

本年7月、南米のウルグアイにおいて、海岸線一带に約2,000羽にのぼるマゼランペンギンの死亡個体の漂着が確認された。そのほとんどが若い個体で、胃内が空の状態であり、鳥インフルエンザ等は陰性であったことから、死因は特定できなかったものの、おそらくアルゼンチン南部から北上する際に魚類をはじめ餌をうまく捕ることができず、餓死状態に陥ってしまった可能性が考えられる。



マゼランペンギン

日本においても5月後半から6月にかけて、関東地方一带の海岸線を中心に、毎年のように数十羽～数百羽のハシボソミズナギドリが餓死状態、あるいは極めて衰弱した状態で発見される。ほぼすべてがその年生まれの若い個体で、タスマニア周辺やオーストラリア南東部の島々で育ち、その後北太平洋に向け赤道を越えて大きな渡りを行う途中で、やはり餌をあまり捕ることができなかったことが主な要因と推定されている。本種のように、巣立ったばかりの若い個体のみで渡りを行う場合においては、大海原で、うまく餌となる魚群等に巡り合えないことも少なくないのかもしれない。



ハシボソミズナギドリ

近年、日本の漁獲状況を見てみると、サンマ、サバ、アジ、イワシ、サケ、イカナゴを始め、多くの魚種が、気候変動や海水温の上昇の影響もあり、主な漁場の移動や漁獲量の変動が大きな問題になっている。これらの魚種は、日本近海で繁殖、あるいは生息している多くの海鳥の重要な餌資源ともなっているため、その動向が、海鳥類の今後にこの上なく多大な影響を及ぼすことが懸念される。

地球温暖化や海水温の上昇については、これを直ちに抑えることは不可能であろうが、海鳥類の将来を見据えた時、重要な餌生物としての魚類の動向については、これからも詳細なモニタリングを継続しつつ、できる限り良好な状態を目標に、場合によっては科学的な調査・研究をもとに、有効な手を打っていくことが求められるに違いない。同時に、海鳥類は世界的に見ても多くが絶滅危惧種に指定されているので、その保全に向けた取り組みも、様々な側面から末永く継続していくことが不可欠である。

◇お知らせ◇

2017年4月よりWRVの事務局に勤務していただいていた齊藤量子さんが、7月31日をもちまして退職されました。

これまで長い間、水鳥救護研修センターの事業を中心として、諸活動にご尽力いただきありがとうございました。今後また新たな道で活躍されますことを、協会一同、お祈り致しております。

< 新任挨拶 >

WRV事務局 二階堂 仁美

この度、8月より野生動物救護獣医師協会の事務局員として、水鳥救護研修センターを担当させていただくことになりました、二階堂と申します。水鳥救護研修センターには学生時代に水鳥救護の実習でお世話になりました。

センターの周りは豊かな雑木林で野鳥をはじめ、様々な生き物が生息しています。今の季節はセミの鳴き声がよく聞こえ、都内では少なくなったヒグラシの鳴き声もよく聞こえます。

専門学校から大学院まで、野生動物について学んできました。今まで学んできたことを生かしつつ、野生動物の保全に貢献していきたいです。

今は新しい仕事を覚えるのにいっぱいいっぱい、まだ仕事もおぼつかない毎日ですが、少しでも早く1人前になれるよう頑張ります。どうぞよろしくお願い致します。



【事務局より寄付のお礼】寄付ご協力者（敬称略）（令和5年6月1日から令和5年8月31日）

○寄付金（一般）	2023.6.8	アミ動物病院（安田剛士）	86,875 円
	2023.7.11	TCA 東京 ECO 動物海洋専門学校（有瀬陽太）	1,000 円

事務局日誌 2023.6.18～2023.9.17

=== 6月 ===

18,25：犬猫・野生動物救護センターにてリハビリテーター活動〔神奈川支部〕	対応：皆川
19：(NPO)丹沢自然保護協会 植樹地整備作業〔神奈川支部〕	対応：皆川
22：周辺の除草作業（環境省水鳥救護研修センター）	対応：齊藤
25：WRV ニュースレターNo.125 発行	対応：小松、箕輪、齊藤
27：第80回日本獣医師会 通常総会（明治記念館）	対応：小松、中川、高橋
27：日本獣医師連盟役員会（明治記念館）	対応：小松
28：WRV 会計に関する打合せ（立川事務所）	対応：小森、箕輪
29,30：東京環境工科専門学校生・野生動物救護実習（東京環境工科専門学校）〔神奈川支部〕	対応：皆川

=== 7月 ===

03：厚木市立玉川小学校4年生の学習指導〔神奈川支部〕	対応：皆川
03：帝京科学大学・野鳥及び油汚染鳥救護実習（上野原キャンパス）	対応：箕輪
04～05：帝京科学大学・野鳥及び油汚染鳥救護実習（上野原キャンパス）	対応：皆川
06：帝京科学大学・野鳥及び油汚染鳥救護実習（環境省水鳥救護研修センター）	対応：皆川、箕輪、齊藤
09,16,30：犬猫・野生動物救護センターにてリハビリテーター活動〔神奈川支部〕	対応：皆川
10：犬猫の殺処分ゼロをめざす動物愛護議員連盟 第13回会議（衆議院第2議員会館会議室）	出席：小松
10：帝京科学大学・野鳥及び油汚染鳥救護実習（上野原キャンパス）	対応：箕輪
11～12：帝京科学大学・野鳥及び油汚染鳥救護実習（上野原キャンパス）	対応：皆川

- 13：令和5年度第1回神奈川県アライグマ・クリハラリス防除実施計画検討委員会（Web開催） 対応：加藤
- 13：帝京科学大学・野鳥及び油汚染鳥救護実習（環境省水鳥救護研修センター） 対応：皆川、箕輪、齊藤
- 15~10/9：国立科学博物館・特別展「海」に海ゴミモンスター君、海ゴミバード君貸出 [神奈川支部] 対応：皆川
- 18,20,21,22：東京環境工科専門学校生・インターンシップ（犬猫・野生動物救護センター） [神奈川支部] 対応：皆川
- 24：令和5年度日本コウノトリの会・役員会（Web会議） 対応：箕輪
- 28：水鳥救護研修センター・事業打合せ（環境省水鳥救護研修センター） 対応：箕輪、齊藤、二階堂
- 29：令和5年度第2回わいわいサロン（オンライン） [神奈川支部] 対応：皆川

=== 8月 ===

- 01：かながわ生物多様性改定に関する検討委員会（県庁） [神奈川支部] 対応：皆川
- 01：東京都獣医師会理事会（東京都獣医師会会議室） 対応：小松、中川、高橋
- 02：神奈川県鳥獣総合対策協議会シカ対策専門部会（オンライン開催） [神奈川支部] 対応：皆川
- 05,20,27：犬猫・野生動物救護センターにてリハビリテーター活動 [神奈川支部] 対応：皆川
- 07：水鳥救護研修センター・新年度事業内容確認等（環境省水鳥救護研修センター） 対応：箕輪、二階堂
- 11：夢見ヶ崎動物公園登録リハビリテーター勉強交流会（夢見ヶ崎動物公園） [神奈川支部] 対応：皆川
- 15：神奈川県鳥獣総合対策協議会（オンライン開催） [神奈川支部] 対応：皆川
- 16：WRV雇用契約および事業内容に関する説明（環境省水鳥救護研修センター） 対応：小松、箕輪、二階堂
- 19：令和5年度・日本コウノトリの会総会（オンライン） 対応：箕輪
- 21：日本獣医生命科学大学獣医学科4年次野生動物学実習（水鳥救護研修センター） 対応：加藤、皆川、二階堂
- 23：日本獣医生命科学大学獣医学科4年次野生動物学実習（日本獣医生命科学大学） 対応：加藤、箕輪
- 24~25：日本獣医生命科学大学獣医学科4年次野生動物学実習（水鳥救護研修センター） 対応：加藤、皆川、箕輪、二階堂

=== 9月 ===

- 01：令和5年度ゆめみらい交流会（夢見ヶ崎動物公園地域交流会）（日吉合同庁舎） [神奈川支部] 対応：皆川
- 03：令和5年度関東・東京合同地区獣医師大会・三学会（埼玉）（ソニックシティ） 対応：小山
- 04：令和5年度「ヒナを拾わないで!!キャンペーン」事業報告書提出（環境省） 対応：箕輪
- 04：厚木市立玉川小学校2年生の学習指導 [神奈川支部] 講師：皆川
- 05~06：第166回日本獣医学会・学術集会（Web開催） 対応：羽山、加藤
- 07：令和5年度第3回わいわいサロン（オンライン） [神奈川支部] 対応：皆川
- 07~10：日本哺乳類学会2023年度大会100周年記念大会（琉球大学、なはと） 対応：羽山、加藤
- 08：第109回日本獣医学会定時総会（Web開催併用） 対応：新妻
- 09,17：犬猫・野生動物救護センターにてリハビリテーター活動 [神奈川支部] 対応：皆川
- 13~15：日本野生動物医学会 Wildlife Education Program (WEP) 2（長野県軽井沢町） 対応：加藤
- 16：2023年度第3回獣医疫学会担当理事・幹事会（Web開催） 対応：加藤

野生動物救護獣医師協会（ホームページ） <http://www.wrvj.org/> (E-mail) kyugo@wrvj.org

NEWS LETTER No. 126 2023.9.30 発行

発行：特定非営利活動法人 野生動物救護獣医師協会

事務局：〒190-0013 東京都立川市富士見町1-23-16 富士パークビル302

TEL: 042-529-1279 FAX: 042-526-2556

発行人：新妻 勲夫 編集文責：小松 泰史 編集担当：箕輪多津男
